

科目番号	科目名	配当年次	授業形態	単位	担当教員
L201	都市計画論 / 都市計画論 I	2年	講義	2	吉田 肇
授業概要 本科目では、社会生活の場である都市の発展や変化に伴って生起する具体的な都市計画課題についての基本的な知識を習得するとともに、日本の都市における市民生活と社会・経済との相互関連性について学習し、よりよい暮らしを実現するために、将来を的確に読み、現状を客観的に理解し、有効な解決方向を思考できる能力を育成する。					
到達目標(学習の成果) ① 都市空間に係る生活環境と実践的知識を理解し説明できること。(DP2) ② 都市に生起する諸課題を分析・比較検討し、変容していく地域社会について柔軟に思考できること。(DP3) ③ 都市計画は市民のためにあることから、まちづくりの考え方や手法を理解したうえで、適切な対応策を考えることができ、将来のまちづくりへの要望、自分たちのなすべきことなど自分の思いを述べるができること。(DP3)					
授業計画					
回	表題	学修内容			
1	なぜ、都市ができるのか	「都市計画論」のアウトラインについてのガイダンスとともに、都市が形成される基本的なメカニズムを学び、集積の経済など都市の発展と整備の歴史について学ぶ。			
2	現代の都市問題	特に、大都市圏郊外部における無秩序な市街化(スプロール)や人口減少、少子高齢化に伴う都市活動の低下、社会資本の維持管理などの都市計画課題を学ぶ。			
3	都市の進化とプランニング	有史以来、人類はより良い居住環境の創造を求め、様々な計画行為(都市プランニング)を積み重ねてきた。今日までの歴史を通じて、プランニング思想の進化について学ぶ。			
4	計画概念とプランナー	都市計画の概念の全体像と、そのような計画の専門家であるプランナーの役割について学ぶ。また、計画の空間的スケールについて学ぶ。			
5	暮らしを支える都市	中心市街地の衰退や用途の交錯が著しい今日、平穏で豊かな日常生活を過ごすため、都市サービスの施設や機能を適切に配置し、活用できる都市について学ぶ。			
6	豊かな都市空間を考える	都市空間を見直し、豊かさを実感できる空間づくり、生活の質(QOL)について学ぶ。また、風土とまちの歴史を活かした都市デザインと景観について学ぶ。			
7	持続可能な都市づくり	地球環境という視点から、持続可能性(サステナビリティ)の概念について学び、身近な緑や都市環境と地球環境の両立について学ぶ。			
8	都市計画の手順と基本方針	中間試験(範囲:講義第1~7回)を実施し、その解説を行う。 また、日本の都市計画についての全体プロセスや、都市計画のための基礎調査や都市計画の基本方針、枠組み(フレーム)について学ぶ。			
9	都市計画の基本的な制度	日本の都市計画を構成する基本的な制度の全体像を概観し、計画の決定手続きや法制度、支援制度などについて学ぶ。			
10	地域地区による土地利用の計画	きめ細かな土地利用の計画や規制のための地域地区の制度について学ぶ。			
11	都市の交通体系と交通計画	都市活動から派生する交通を、安全で円滑に処理する交通計画について学ぶ。			
12	都市の再構築	都市の機能更新のため、市街地の区域を面的にとらえて、住宅及び宅地、公共施設を一体的に整備する市街地開発事業について学ぶ。			
13	新しい都市の形を考える	時代の変化に応じた、今後の新しい都市の方向性について考えるため、コンパクトシティ、スマートシティ、クリエイティブシティなどについて学ぶ。			
14	まちづくりの合意形成と担い手	まちづくりにかかわる住民による合意形成の方法や課題を整理するとともに、専門家を交えた決定方法や市民のまちづくりへの参加の促進方法について学ぶ。			
15	これからの都市づくり	より良い都市づくり、魅力のあるまちづくりに向けて、内外事例から、私たちが取り組むべき課題解決方向について学ぶ。			

準備学修(授業外の自己学修)

- ・宇都宮市においても、地域を取り巻く社会環境が大きく変わりつつあるため、日頃から地域経済の動きを観察したり、新聞の地方版やテレビニュースなどから関連情報を得るなど、都市やまちづくりに関するアンテナを高くして関心や知識を高めておくこと。
- ・宇都宮市では、「ネットワーク型コンパクトシティ」を将来の都市構造として第5次総合計画に掲げ、まちづくりを進めている。宇都宮市役所のWebサイト「うつのみやのまちづくり」(<http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/machizukuri/index.html>)では、「宇都宮ブランド戦略」「全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業」「都市マスタープラン」をはじめとする宇都宮市の主要施策・事業を紹介しているので、自分の住んでいる地区の都市計画を追いかけてみると、身近なまちづくりを実感できる。

成績評価の方法・基準(%表記)

学期末の定期試験(60%)、中間試験・小テスト(10%)及び出席・授業態度(30%)に基づいて、絶対評価で判定する。

観点	S	A	B	C
都市空間に係る生活環境と実践的知識の理解	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
都市に生起する諸課題を分析・比較検討し、変容していく地域社会について柔軟に思考	完全に理解できている。	ほぼ完全に理解できている	十分に理解できている	一定程度理解できている
将来のまちづくりへの要望、自分たちのなすべきことなどについて、自分の思いの表現	完全に表現できている。	ほぼ完全に表現できている	十分に表現できている	一定程度表現できている

教科書

本科目では使用しない。毎回、講義内でコピー資料を配付する。

参考書等

- ・「入門都市計画 都市の機能とまちづくりの考え方」, 谷口 守(著), 森北出版, 2014年, 2,376円(税込)を強く推奨する。
- ・「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」, 伊藤 雅春(著), 小林 郁雄(著), 澤田 雅浩(著), 野澤 千絵(著), 真野 洋介(著), 彰国社, 2017年, 2,592円(税込)
- ・「生活の視点でとく都市計画」, 葉袋 奈美子(著), 室田 昌子(著), 加藤 仁美(著), 彰国社, 2016年, 2,808円(税込)

履修上の注意・学修支援

- ・都市計画やまちづくりは、私たちの日常生活にきわめてかかわりの関係の深い分野を対象にしている。少子高齢化、環境・資源問題など、変化する社会経済環境の中で、これからの都市とまちづくりのあり方を考えてみようという内容であり、意欲を持って取り組んでほしい。
- ・従って、欠席や遅刻、私語やスマホ操作が多い場合には意欲がないものと解釈される。
- ・学修内容に関する質問や意見など、毎回配付する「聴講カード」に具体的に記入すること。カードへの記入内容を出席・授業態度の判断材料の1つとするとともに、寄せられた質問や意見は、実際に講義の中でも取り上げ、受講者全体にフィードバックします。
- ・都市計画やまちづくりを学ぶうえで、「都市づくり入門」「都市問題入門」などの科目を合わせて履修することが望ましい。